

令和4年度 奥浦中学校 学力向上プラン

【目標】 全校での共通実践を通して、地域への誇りと将来への志を持つ生徒の育成を図る。
<指標> 令和5年度全国学力・学習状況調査の各教科における「話す、聞く、書く」問題の正答率を、全国比+4%にする。

1人1正答数アップ

【授業づくり（授業改善）】

- 本校生徒に身に付けさせたい資質・能力をもとに、ねらいに即した「書く活動」を重視した授業実践を行う。
 - ・主語や述語、理由や根拠を明確にした、書く活動を取り入れる。
 - ・めあてや学習課題に対して生徒が自身の考えをもてるよう活動を工夫し、他者との対話を通して、考えの比較や深化を図る。
- コグトレを生かして、生徒の認知能力を把握し、生徒自身にも意識させ、ユニバーサルデザインの授業実践の在り方を探る。

〔重点取組〕

・「書く活動」を意図的に取り入れ、思いや考えを表現する活動など多様な他者との対話を通して、生徒自身が考えを広げ、深めることができたことを自覚できるようにする。

<取組指標>

- ・生徒質問指標調査「(17)自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか)において、肯定的な回答をした生徒の割合を全国との差-3.0P以内(R4 -5.0P)
- ・各教科における質問紙調査(国1,数1,理1)の「書く問題に関する回答状況」の割合を、いずれの教科においても全国との差-5.0P以内(R4 国語-20P 数学-3.0P 理科-2.5P)

《児童生徒の学力の課題及び要因の考察》

- <学力の課題> ・国語科「話すこと・聞くこと」「書くこと」
 - ・数学科「データの活用」領域における、自分の考えを持つことに関する設問
 - ・英語科「読むこと」
- < 要 因 > ・思いや考えを表現し、他の考えに触れる機会が十分とは言えない。
 - ・考えや意見を書くにあたって必要となる基礎的な知識の定着を図る家庭学習の習慣化が図れていない。
 - ・指示語や言い換えた表現の理解が十分ではなく、教師の発する言葉や提示する文章が伝わっていないのではないか。